

2015年度入学者選抜・試験対策

AO入試・公募制推薦入試 動向調査資料

アンケート回答校の内訳

設置者	回答数	割合
国立	44	10.6%
公立	44	10.6%
私立	327	78.8%
総計	415	100.0%

●調査対象

全ての4年制大学752校を調査対象にした。この中に、募集停止(予定含む)の大学は含まない。

●調査方法、回収率

2014年4月9日にファックスにて質問紙を発信。質問紙は、4月9日から22日までに回収。

大学によっては、学部ごとに、もしくは短期大学部の分についても回答。

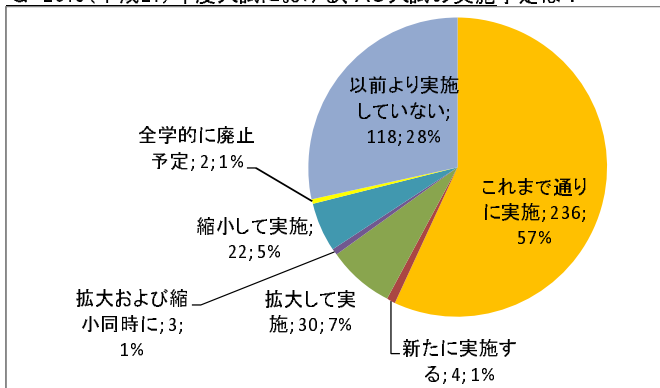
全回答の内、集計に使用できた回答数は415。大学単位でカウントした場合、その回答数は394で、回答率を算出すると52.4%になる。

●集計上の注意

「空欄」「無回答」は、次シート以降の集計からは外している。そのため、グラフ・表に無回答欄はない。

① AO入試について

Q 2015(平成27)年度入試における、AO入試の実施予定は？



* 左図「拡大して実施」30回答の詳細(複数回答あり)

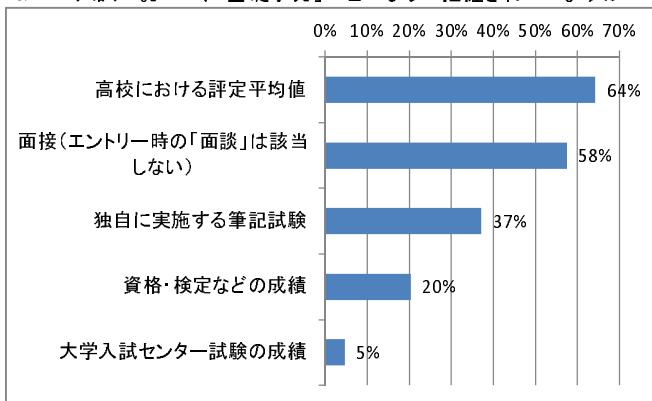
実施学部数を増やす	実施回数を増やす	募集人員を増やす
11	17	10

* 左図「縮小して実施」22回答の詳細(複数回答あり)

実施学部数を減らす	実施回数を減らす	募集人員を減らす
8	10	9

「これまで通り実施」が最多の236回答で、過半数に達した。「新たに実施」は4回答。26年度入試において認可の都合でAO入試が実施できなかった、新設大学および新設学部を有する大学からであった。「拡大して実施」は30回答。「学力以外にも多様な成長を秘めた可能性のある学生を育成したいため。」「入試のチャンスを拡大することで、本学で学びたいという意欲の高い生徒を獲得したい。」など、AO入試によって得られた優秀な学生をさらに増やしたいという意向がうかがえる。一方、「縮小して実施」は22回答。「一般入試への振り替え。」「志願状況から入試方式を精査した。」など他の入試方式への移行のほか、「他の入試と比べ、受験生の基礎学力把握のための労力がかかる。」といった運営の難しさも挙げられている。さらに、「近隣高等学校等からの意見を参考に、実施時期・回数 of 再検討を行った。」というコメントも寄せられた。「全学的に廃止予定」は2回答のみ。以上を総合して解釈すれば、学生を獲得する手段としてAO入試は重視されており、入学後の指導の難しさから縮小はあっても制度自体は維持したいという思いが強いと考えられる。「新規実施」と「拡大」の合計が34、一方、「縮小」と「廃止」の合計が24で、差し引きすればプラス10。学生募集に苦勞している大学を中心に拡大基調と言えよう。

Q AO入試において、「基礎学力」はどのように把握されていますか？(複数回答可)



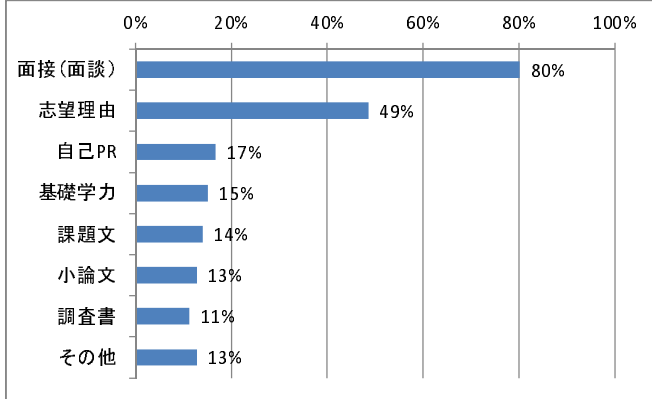
本設問の回答数は280。グラフでは、その280を分母に、各項目についての回答数を分子にしたパーセントを示している(以下、「複数回答」の設問では、同様の計算によるパーセントを示す)。

「高校における評定平均値」と「面接」が上位に並ぶ。

「独自に実施する筆記試験」は104回答で、うち医療系大学が17回答。また、「大学入試センター試験の成績」は国公立大学のみだった。

4年前に1都6県の大学を対象に行った小社の調査では、「独自に実施する筆記試験」84%、「高校における評定平均値」55%の順だった。調査対象は異なるが、調査書の評定をより重視する姿勢がうかがえる。なお、国公立大のみに限った回答率は、「高校における評定平均値」44%、「面接」53%、「独自に実施する筆記試験」53%、「資格・検定などの成績」22%、「大学入試センター試験の成績」38%。評定平均値よりも筆記試験に重きを置く傾向にある(国公立大の回答率の並びは、全体集計に準じる。以下解説文も同様)。また、私立大における「独自に実施する筆記試験」の回答率について、首都圏、関西圏のエリア別に見たところ、首都圏は51%、関西圏は21%。エリア間の差が明らかになった。

Q 入試で重視するポイントは何でしょうか？(特に重視するものを2つまで選択)



本設問の回答数は257。

「面接(面談)」が8割の回答率で、非常に重視されていることが分かる。

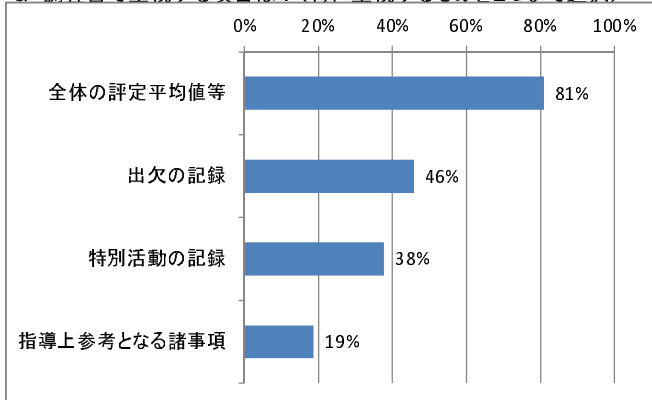
本調査では、「志望理由」「自己PR」「課題文」を、出願時に提出する書類として選択肢に掲げた。当然であるが、面接においてはその内容の詳細を聞かれることになる。

「その他」には、「プレゼンテーション」「適性検査」「実習」などが挙げられた。

国公立大のみに限った回答率は、「面接(面談)」67%、「志望理由」22%、「自己PR」11%、「基礎学力」39%、「課題文」6%、「小論文」17%、「調査書」0%、「その他」28%。「面接(面談)」は1位であるが、全体集計と比べ13ポイントも低い。それに対して、「基礎学力」の回答率が17ポイント高くなっている。

また、私立大において、首都圏と関西圏の差について分析したところ、「志望理由」および「調査書」で少なからずの差が見いだせた。「志望理由」の回答率は首都圏39%、関西圏58%に対し、「調査書」は順に13%、4%だった。

Q 調査書で重視する項目は？(特に重視するものを2つまで選択)



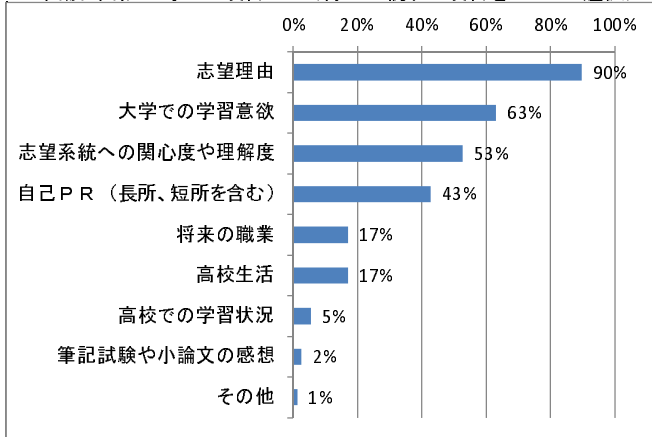
本設問の回答数は236。

重視する項目は、大学によって異なっている。81%の大学で、「全体の評定平均値等」を重視し、2位に「出欠の記録」が続く。

なお、4年前の調査では、「特別活動の記録」「出欠の記録」も、「全体の評定平均値等」とほぼ同じ回答率だった。集計方法は異なるが、評定重視の傾向が強まっていると考えられる。

なお、国公立大の回答率の傾向は、全体の回答率と大きな違いは認められなかった。

Q 面談・面接で尋ねる項目は？(特に重視する項目を3つまで選択)



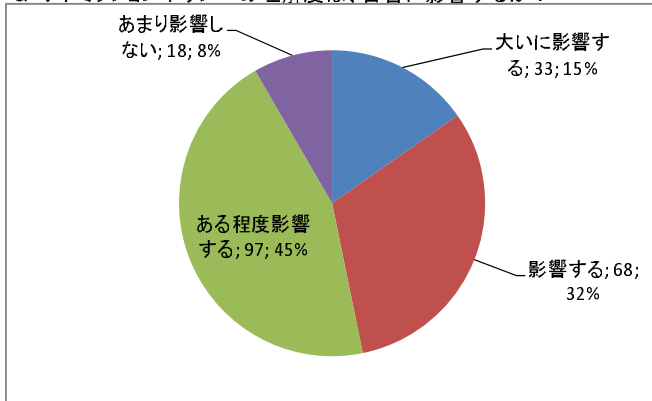
本設問の回答数は241。

面接では、「志望理由」が必ず聞かれ、「大学での学習意欲」「志望系統への関心度や理解度」「自己PR(長所、短所を含む)」の順で尋ねられていることが分かる。

逆に、「高校生活」に関する内容はそれほど問われないようだ。面接時間は限られているため、調査書や生徒自身が作成した書類から判断しているとも推測できる。

国公立大のみの回答率は、「志望理由」69%、「大学での学習意欲」62%、「志望系統への関心度や理解度」69%、「自己PR(長所、短所を含む)」23%、「将来の職業」0%、「高校生活」8%、「高校での学習状況」8%、「筆記試験や小論文の感想」0%、「その他」8%。全体集計と比べると、「志望理由」「自己PR」が低くなり、「志望系統への関心度や理解度」が高くなっている。

Q アドミッションポリシーの理解度は、可否に影響するか？

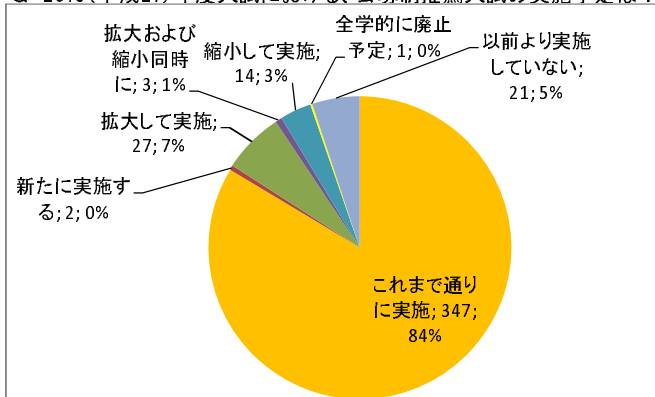


「ある程度影響する」45%、「あまり影響しない」8%で合わせて53%という数字は意外に少ない結果だった。ただし、アドミッションポリシーを理解していないと、大学にアピールする書類や小論文が作成できず、面接ではうまく答えられない。また、志望理由との関係も強い。

国公立大のみの集計は、「大いに影響する」36%、「影響する」36%、「ある程度影響する」14%、「あまり影響しない」14%。国公立の方がその影響力が大きいと考える。

② 公募制推薦入試について

Q 2015(平成27)年度入試における、公募制推薦入試の実施予定は？



* 左図「拡大して実施」27回答の詳細(複数回答あり)

実施学部数を増やす	実施回数を増やす	募集人員を増やす
9	12	9

* 左図「縮小して実施」14回答の詳細(複数回答あり)

実施学部数を減らす	実施回数を減らす	募集人員を減らす
1	5	10

AO入試と同様、「これまで通り実施」が最多。その数値は公募制推薦はAO入試よりも多く84%に達している。

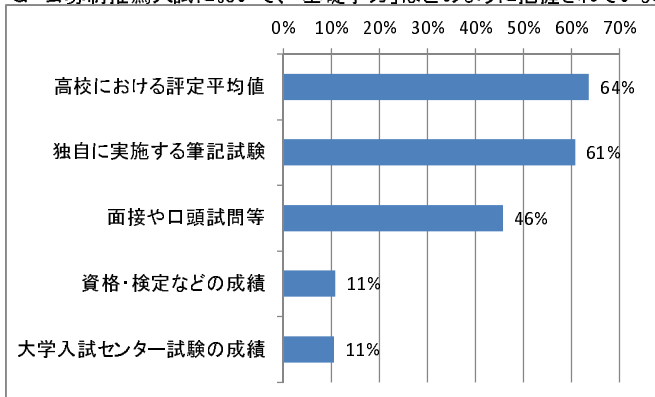
「新たに実施」は2回答。今春、新しい学部を設置した大学から回答が寄せられた。

「拡大して実施」は27回答あった。「志願者の利便性のため。」のほか、「(特定資格を条件にするなどして)高校の普通科以外の学科から志願者を募集するため。」「高評価の受験生へ特待付与の可能性を増やす。」など入試を通して、多彩な受験生を受け入れようとする大学側の意図がうかがえる。

一方、「縮小して実施」は14回答。「受験者の動向を見極め縮小する。」のほか、「学力維持のため。」という声も上がった。

「新規実施」と「拡大」の合計が29、一方、「縮小」と「廃止」の合計が15で、差し引きすればプラス14。AO入試と同様、全体として拡大基調だ。

Q 公募制推薦入試において、「基礎学力」はどのように把握されていますか？(複数回答可)



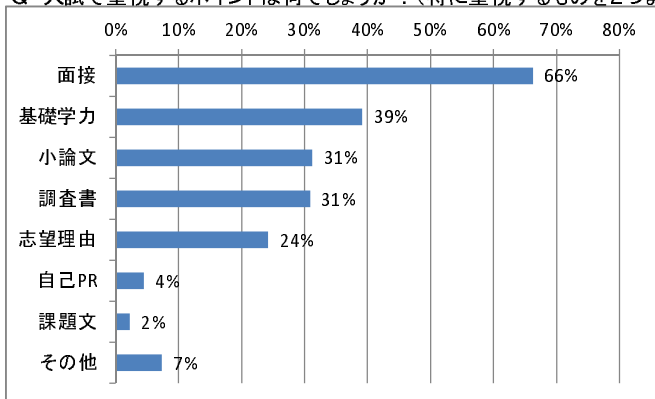
本設問の回答数は379。

「高校における評定平均値」が最多なのはAO入試と同じだが、僅差で「独自に実施する筆記試験」が続くのは公募制推薦ならではの傾向だ。その代わりに、「面接や口頭試問等」「資格・検定などの成績」は、AO入試ほど回答率は高くない。

国公立大の回答率は、「高校における評定平均値」61%、「独自に実施する筆記試験」63%、「面接や口頭試問等」52%、「資格・検定などの成績」8%、「大学入試センター試験の成績」45%。「大学入試センター試験の成績」のほか、「面接や口頭試問」についても重視の傾向にある。

また、私立大における「独自に実施する筆記試験」の回答率を注目すると、首都圏48%、関西圏84%。両エリアには大きな違いが表れている。

Q 入試で重視するポイントは何でしょうか？(特に重視するものを2つまで選択)

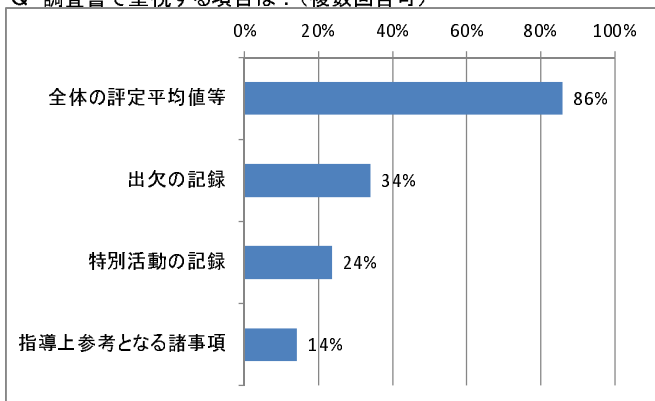


本設問の回答数は314。

公募制推薦入試においても、「面接」重視がうかがえる。30%台で、「基礎学力」「小論文」「調査書」が続くが、それぞれAO入試よりも倍以上の差で回答率が高く、高校での成績がより一層重視されていることが分かる。

国公立大では、「面接」79%、「基礎学力」44%、「小論文」47%、「調査書」7%、「志望理由」12%、「自己PR」0%、「課題文」2%、「その他」9%。「面接」、「基礎学力」および「小論文」に重きが置かれている。

Q 調査書で重視する項目は？(複数回答可)



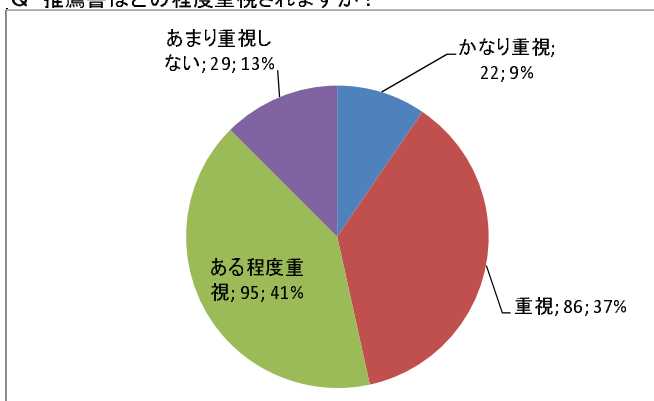
本設問の回答数は297。

「全体の評定平均値等」が86%で、以下、「出欠の記録」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」が続く。

4年前の調査でも同じ順位であったが、1位・2位の差はより小さかった。

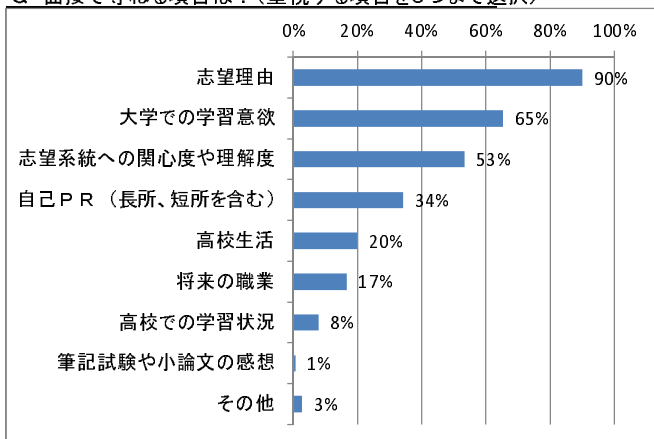
国公立大では、「全体の評定平均値等」81%、「出欠の記録」14%、「特別活動の記録」14%、「指導上参考となる諸事項」17%。「指導上参考となる諸事項」以外は、全集計より低い数値になっている。

Q 推薦書はどの程度重視されますか？



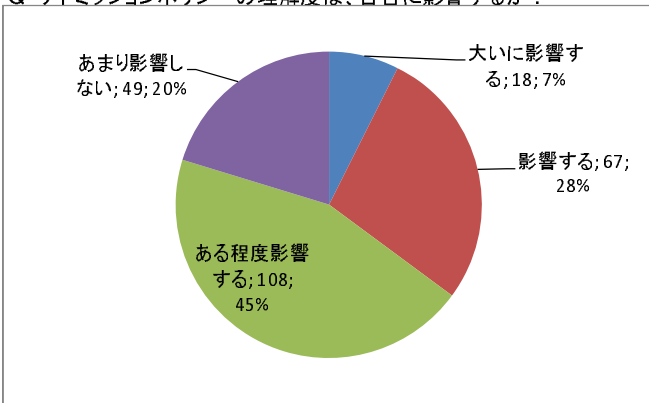
この設問は公募制推薦入試についてのみ設定。
 「かなり重視」から「ある程度重視」までを合わせると203回答・88%にも達する。推薦書の扱いは重視されていることが分かる。
 国公立大のみの集計は、「かなり重視」4%、「重視」42%、「ある程度重視」46%、「あまり重視しない」8%。

Q 面接で尋ねる項目は？(重視する項目を3つまで選択)



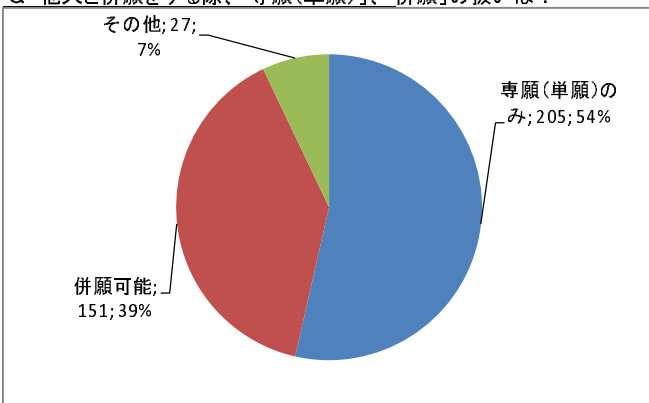
本設問の回答数は251。
 1位は「志望理由」で90%、以下、「大学での学習意欲」65%、「志望系統の関心度や理解度」53%と続く。
 回答率の順位、数値とも、AO入試の結果に近いが、「高校生活」および「高校での学習状況」は、AO入試の数値よりも上回っている。
 国公立大だけ見ると、「志望理由」77%、「大学での学習意欲」70%、「志望系統への関心度や理解度」60%、「自己PR(長所、短所を含む)」20%、「高校生活」10%、「将来の職業」7%、「高校での学習状況」0%、「筆記試験や小論文の感想」0%、「その他」7%。大半の項目で全体集計よりも低くなっている。

Q アドミッションポリシーの理解度は、合否に影響するか？



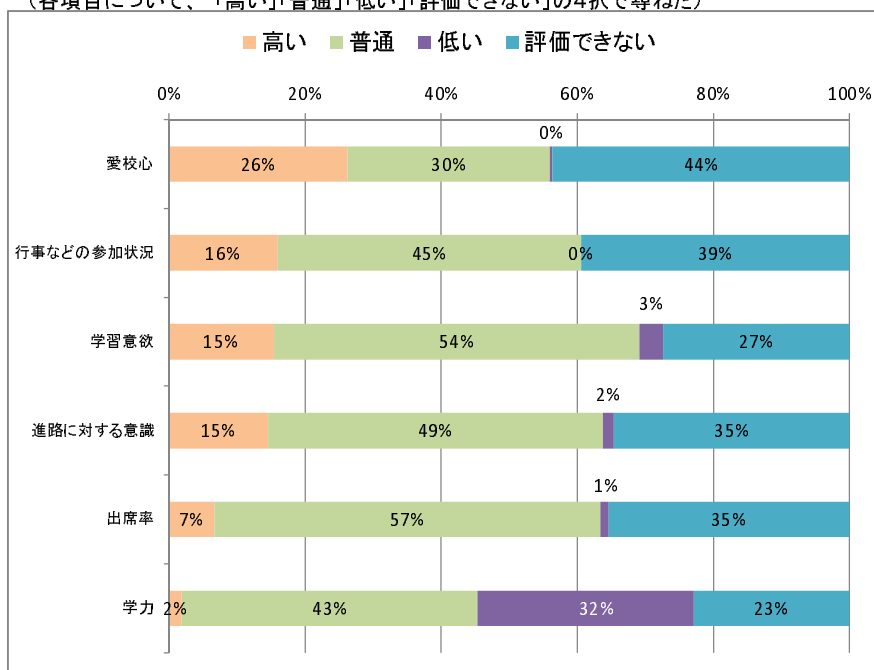
「ある程度影響する」45%はAO入試と同じ数値だが、「あまり影響しない」が20%にも達している。AO入試よりも影響は小さいと考えられる。
 国公立大では、「大いに影響する」18%、「影響する」41%、「ある程度影響する」23%、「あまり影響しない」18%。AO入試の場合と同様、国公立大の方がその影響は大きいと考えている。

Q 他大と併願をする際、「専願(単願)」、「併願」の扱いは？



「専願(単願)のみ」が半数を超え、「併願可能」は4割に届かなかった。
 なお、「その他」の内容は様々で、「学部や学科により扱いが異なる。」「専願型と併願型の複数の入試方式がある。」「1期は専願、2期は併願。」「特別奨学金貸与の試験は専願で、通常の推薦入学試験は併願。」など。
 私立大においては、首都圏と関西圏で扱いが大きく異なる。「専願のみ」の回答は、首都圏が69%だったのに対し、関西圏は12%だった。

Q 一般入試の入学者と比べて、AO入試や公募制推薦入試で入学した学生の評価は？
 (各項目について、「高い」「普通」「低い」「評価できない」の4択で尋ねた)



本設問の回答数は上から順に、259、256、259、254、254、258。
 一般入試の入学者と比べて、AO入試や公募制推薦入試で入学した学生の評価はどうだろうか。「評価できない」という回答も少なからずあるが、概ね一般入試の入学者よりと変わらない評価だ。
 しかし、「学力」については「低い」が32%にも達している。前に掲げたAO入試、公募制推薦入試の実施予定の設問でも、「縮小」の理由として指摘する大学があった。さらに、自由回答形式による設問「AO入試や公募制推薦入試に向かない生徒の傾向とは？」にも、学力不足を指摘する声が散見された。
 AO入試や公募制推薦を売りのあるものにするためには、入学前、入学後を通して学力対策が必要とされている。
 国公立大と比較したところ、いくつかの項目で傾向に違いが見られた。「行事などの参加状況」は「高い」20%、「普通」24%、「低い」0%、「評価できない」55%、「学習意欲」は順に、22%、35%、0%、43%。さらに違いが著しいのは「学力」で、「高い」6%、「普通」45%、「低い」8%、「評価できない」41%。全体集計とは異なり、「学力=低い」が少数になっている。
 なお、「評価できない」は、調査していないだけでなく、優劣が激しく評価できないという見方も含まれていると考えられる。

設立	高校の先生方に向けて、生徒が小論文を解答する上で習得しておいてほしいこと
私立	「作文」ではなく、「小論文」を書くための基本的事項の習得。
私立	「作文」と「小論文」の違いの理解、課題文の要約(要旨・主張のまとめ方)の仕方、課題文に対する受験生の意見のまとめ方。
私立	「大学が求める学生像」を参考にして欲しい。(志望理由書の場合)
私立	あくまでも「論文」形式で、いわゆる「序論、本論、結論」の三段階構成あるいは「起・承・転・結」の四段構成で叙述することが必要。
私立	アサーティブな論理的思考。(独創的で普遍的な論文の習得)
私立	アドミッションポリシーの理解は必要。(志望理由書の場合)
私立	解答すべきことが何なのか、よく問題文を読んでから解答してほしい。誤字・脱字での減点はもったいない。
国公立	学生募集要項に記載されているアドミッションポリシーを参照してほしい。(志望理由書の場合)
私立	過去問題集にアドバイスを掲載、ぜひ参照してほしい。
私立	過去問題を参考にしてもらいたい。誤字脱字がないように指導願いたい。
私立	課題に対して自分の考え、意見を述べられるように習得。
私立	課題に対する判断力と論理的説明能力を養うとともに、論文構成力と文章表現力を身に付けておいてほしい。
私立	課題の趣旨に沿って論じること。(課題文の要約・要旨の方法習得)
国公立	課題文に対する正確な読解力、課題文の筆者の論点や自分の考えをまとめ適確に表現する力。
私立	考え、思いを明確に書けるようになってもらいたい。
私立	簡単に自己の意見をまとめられる能力を習得してほしい。
私立	基礎的な国語力と要領よくまとめる力。
私立	基本的な語学力と文章読解能力、漢字ミスも多いので注意が必要。
私立	基本的な国語力(漢字の使い方、原稿用紙の使い方等)及び、論理力を採点のポイントにしているので、必ず何度か練習して受験に臨んでほしい。
私立	基本的な資料を読み取る力、及び自分の考えを論理的に表現する力。その他、自分の将来についての具体的な目的意識。
私立	基本的な文章構成力をつけておくこと。
私立	基本的な文章能力の習得と、漢字やかなづかいに注意。
国公立	基本的な文法、表現力、テーマに対する構成力。(ただし、準備しすぎ、型にはまっている場合は、むしろマイナス評価のこともある)
私立	決められた時間内で、下書きと清書の時間配分をマスターしてほしい。
私立	興味・関心のある事柄について研究し、自分の主張を文章に表せるように指導してほしい。
私立	原稿用紙の使い方、構成等、基本的な事項。
私立	現実の社会や時代と直結する時事問題について、世論だけでなく、「自分自身」の意見を日頃からまとめられる力を養ってほしい。
私立	語彙力、自分の意見を述べる力。
私立	国語能力。(基本的な国語力)
私立	国語力。(基本的な国語力)
私立	国際化、情報化について日頃から関心を持って情報をまとめておくこと。
国公立	誤字脱字に注意し、与えられた字数で的確かつ簡潔にまとめる力を高めて欲しい。
私立	誤字脱字をなくす。できるだけ指定される文字数に近づける。活字に慣れる。
私立	最低限、漢字の書き取りはできるようにしてほしい。
私立	作文と小論文の違いは理解しておいてもらいたい。
私立	試験で指定する文字数の8〜9割は埋められる文章作成能力。
私立	事前に小論文の添削をしてほしい。
私立	指定字数に対する文字数や誤字脱字など形式要件を満たすことは必須。また、論点がずれていないことも基本。
私立	自分なりに意見を持ち、まとめる力。字数制限、原稿用紙の使い方などの基本ルール。
私立	自分の意見、考え方が表現されているかどうか。(論・意見があること)
私立	自分の意見を簡潔、かつ論理的に述べること。(文章が段落構成されていること)
国公立	自分の意見を述べられる力。
私立	自分の考えや主張を明確に文章にすること。
国公立	自分の考えを読んだ者にわかるように書ける力。出題の意図の理解力、論理的に文章を書ける力。
私立	自分の素直な考えを、丁寧に説明するためには、書き始める前に、出題文の著者の主張、それに対する自分の考え、それを裏付ける具体的な例をまとめ、文章の組み立てを構想することを習得してほしい。
私立	志望学部・学科の教育内容の理解。(志望理由書中心)
国公立	志望学部のアドミッションポリシーに適合した解答をしてほしい。(志望理由書の場合)
私立	志望する系統、分野の今日的課題について、日ごろから関心を持ち、新聞やニュースを見ること。漢字力。
私立	志望分野についての知識や問題意識、論理的思考力、文章読解力、文章表現力等。
国公立	社会問題や課題に関する興味・関心を持ち、最低限の知識を持たせること。上記の問題・課題に対して、自分の言葉で問題意識を述べられるようにすること。
私立	授業等の学習の他、時事問題にも興味や関心を持ってほしい。
私立	出題意図のポイントを押さえ論理的に書くこと。ニュース等に関心を持つこと。
私立	出題された課題の意図を十分に理解したうえで、自分の考えを説得力のある論理的な文章にまとめあげる。
私立	出題の意図を理解し、解答には、内容の妥当性と豊かさを持たせ、それを文章で伝える訓練をお願いする。
私立	小論文作成に必要な「読解」「発想」「思考」「表現」の4つの力を磨いてほしい。
私立	小論文受験対策講座を行っているので、オープンキャンパスなどに是非参加してもらおうように生徒に周知してほしい。
私立	小論文の書き方の習得(作文との違い、意見を論理的に述べられているか)。

設立	高校の先生方に向けて、生徒が小論文を解答する上で習得しておいてほしいこと
私立	小論文の基本的な書き方の習得。
私立	小論文の組み立て方、漢字など。
国公立	小論文の評価は、何を問われているのかを理解して、自分の考えを文章にまとめることができているかどうか。たんに受験対策で記憶してきたことをそのまま解答しても評価されない。
私立	序論、本論、結論の形式で自分の考えを主張する。あるいは、起・承・転・結の形式で自己の論を主張する。誤字脱字に注意する。
私立	新聞等のメディアで取り上げられている社会問題、時事問題に関心を持つこと。そして自分の考えをまとめる訓練をすることが必要。自分で書く練習をするとともに、例えば、新聞の読書投稿欄などの良い文章を参考にするのも良いと思われる。
私立	新聞の社説の要約をマスターしてほしい。
私立	設問資料に対する理解力と、自己表現力を磨いてほしい。
私立	設問に沿って論旨が展開されているか。
私立	設問に対しての読解力。
私立	早期の対策が重要である。
私立	大学での学習意欲や異文化への関心度についてまとめておくとよい。
国公立	大学のHPに掲載している、「出題の意図、採点総評」を参照。
私立	大学発行の募集要項や入試ガイドに、出願のねらい、アドバイス、評価のポイントが掲載されている。ぜひ参照してほしい。
私立	出された課題を正しく理解し、それに対する自分の考えを的確に表現する力を身に付けておいてほしい。
国公立	たずねた内容を正しく理解し、バランスよく文字制限以内でまとめてほしい。
私立	正しい漢字の使い方。
私立	単語を中心とした短文しかかけない生徒が増えているように思われる。長文で自らの意見を述べられる基礎的な能力で培ってほしいと思う。
私立	段落の頭は1マスをあける、起承転結など、小論文の形式を整える力は最低限身に付けて欲しい。
私立	テーマの意味をつかみ、出題の意図に適した考えを述べる力。
国公立	テーマの理解、自分の考えを上手に伝える力。
国公立	読解力、理解力の習得。
私立	内容を要約することができ、自分の意見も的確に記述する能力。
国公立	日本語としての文章力と論理的構成力。
私立	日本語の読解力、表現力、構成力の向上。
私立	日本語力、設問の内容を理解して記述する。
国公立	入学者受入方針に記載のとおり、英語を含む文章読解力。
私立	幅広い知識と知見がほしい。
国公立	日頃から新聞やニュースに接し、問題意識を高め自らの意見や批判的視点を持ち、論理的に発信する技法。
私立	日頃から読書、あるいは社会問題へ関心を持つ習慣を身に付け、自分の意見として発信できる力を養っておく。
私立	日頃から新聞を読むなどして幅広く問題意識を持ち自分の考えを養ってほしい。
私立	日々文章を読み、読解力をつけてほしい。
私立	表現力を養成。
私立	普段から評論系の文章に触れ、読解力を強化することが基本。それとともに、問題集の活用で繰り返し解くことにより、本文の読解力、問題の解き方のコツをつかむことが大切だと考える。
私立	文章構成ができているか、PRが一貫しているか、誤字脱字がないか、字数など。
私立	文章読解力、思考力、論述力を身に付けておく。
私立	文章読解力、表現力、漢字能力、原稿用紙の使い方をマスターしていること。
国公立	文章読解力、表現力。
国公立	文章読解力と論理的な作文力。
私立	文章能力。
私立	文章の書き方の基本、常用漢字の使い方。
私立	文章の基本的な構成。論点の整理。
私立	文章の構成、漢字の使用等。
私立	文章の構成力、誤字脱字がないこと。
国公立	文章の読解力、論理的な思考能力、文章作成力を習得していただきたい。
私立	文章の認知、了解、表現力。
国公立	文章やグラフなどの資料を正しく読み取る力と自分の考えをまとめ、自分の言葉で表現する力を習得しておいてほしい。
私立	文章力、読解力、表現力、展開力、思考力、柔軟性、社会情勢の理解。
私立	文章を要約する能力、自分の意見を表現する能力の習得が望ましい。
私立	文章を読み、要約できる能力。
私立	文章を読んでまとめる力。
私立	文脈が整っていること。誤字脱字がないこと。
私立	文脈力。
私立	下手でも丁寧に書くようにしてほしい。全体の構造をイメージしてから書くといい。
私立	本学の小論文では専門知識を問わないので、基礎知識で簡潔にまとめる能力を身に付けて欲しい。
私立	本や新聞を日頃から読み、関心を持ち、自分の意見を文字で表現する習慣を身に付けてほしい。
私立	まずは「作文」と「小論文」の違いを理解させること。そして小論文に限らず、しっかりと漢字を書く、誤字・脱字がないようにする、といった基本的な部分を強化することが大切である。
私立	まずは基本的な論文の書き方(起承転結など)。

設立	高校の先生方に向けて、生徒が小論文を解答する上で習得しておいてほしいこと
私立	まずは誤字脱字を減らし、文章の起承転結をアドバイスしていただきたい。
私立	問題の意図を読み取り、的確に解答する。誤字脱字のチェックも大切である。
私立	問題の意図を理解し、自分の意見を起承転結で表現できるように。また、誤字脱字等がないか注意する。
私立	問題文の内容を理解し、文脈に即して論述し、自分の考えで内容を展開し、文章表記や誤字脱字に注意する。
私立	要約すること、自分自身の考えをまとめる事に力を注いでほしい。
私立	読む側に立った基本的な文章構成。
私立	論旨を理解して書くこと。
私立	論題から「何を書けばいいのか」を考える。自己の考えを深め、固める。考えを整理し、流れを決める。意見と理由を分かりやすく書く。
私立	論点を確実につかむ訓練をしてほしい。日頃から志望学科に関する社会問題を意識してほしい。
私立	論文の体裁が整っていることと、具体例を盛り込んでいること。
私立	論理性、自分の意見を表現できる。
私立	論理性、文章表記・表現、内容、構成。
国公立	論理性のある構成に。
私立	論理的思考能力とその表現力。また基礎的な数的理解力。
私立	論理的な文章が書けること。
私立	論理的文章の読解力を習得してほしい。

設立	AO入試や公募制推薦入試に向かない生徒の傾向とは？
私立	AO入試については、積極的にコミュニケーションがとれない生徒は向かない。
私立	AO入試については、面接において自分の意見を述べるのが苦手な人。
私立	AO入試の場合は期日までに課題を提出してもらおう。それが完成させられなければ無理。また、人物を多方面で評価するので、学力以外に元気の良さ、第一印象が大切。
私立	AO入試は面接でのアピールが重要だが、最近は堂々と「面接が苦手だ」という受験生が現れていて困る。
私立	AO入試は面談・面接形式なため、コミュニケーションが苦手な生徒は向かない。
私立	AOや推薦を入りやすい(入学しやすい)入試手段としてしか見ていない生徒。積極的、意欲的でない生徒。
国公立	アドミッションポリシーで求めている学生像に合わない生徒
私立	アドミッションポリシーに合わない者。
国公立	アドミッションポリシーや求める学生像に合致していない生徒。
国公立	一概にはわからないが、入試が終わると勉強しなくなるようだ。
国公立	一般入試に対応する「教科学力不足」を理由にAO・推薦入試を受験する生徒。
私立	一般入試より楽に入れるからAO・推薦を選択した場合、仮に合格しても大学の授業についてこれず、休学や退学をするケースもある。
私立	意欲・やる気がない。
私立	オープンキャンパスに参加していない。
私立	会話が弱い、特別活動への取り組みが弱い。
私立	学習意欲や熱意に乏しい生徒、社会情勢等に無関心な者。
私立	学習習慣が身につけていない生徒は、たとえ合格しても入学後苦勞する人が多い。
私立	学部のアドミッションポリシーの理解度が低い生徒。
私立	学科試験が苦手だというだけで、AO入試や公募制推薦入試を受験する人。
私立	基礎学力が一定レベルに達していない。
国公立	基礎学力が不足しており、一般入試では合格できないので推薦で受験しようとする者。
私立	基礎学力の低い者、学習意欲の低い者
私立	基礎学力や日常的な学習習慣が身につけていない生徒。
私立	協調性に欠ける生徒、生活態度に問題がある生徒、意欲のない生徒。
私立	高校卒業後、あるいは将来に向けての目的意識の高くない生徒。
私立	高校での欠席日数が多い。
国公立	口頭や文章による自己表現ができない生徒。
私立	声が小さかったり、元気がない生徒は要注意。
私立	コミュニケーションが上手にとれない、元気がない等。
私立	コミュニケーションがとれない生徒。
私立	コミュニケーションが苦手な生徒。
私立	コミュニケーションが苦手な生徒。
私立	コミュニケーション能力が不足している生徒。
私立	コミュニケーション能力の欠如。
私立	コミュニケーション能力の低い生徒(会話ができない)。
私立	コミュニケーション力の低い人。
私立	コミュニケーションをとることが苦手で、積極的に人と関わり円滑な対人関係を構築することのできない生徒。
私立	自己の考えをしっかりと述べることができない。
私立	自己の目的意識が希薄であったり、志望選択において自己の決定力が弱い場合は、その表現を面接時において発揮できない場合が多い。
私立	自己表現力が低い、自己分析・理解が不十分。
私立	自己分析ができずに、自己アピールができない人。
私立	自身で意欲的に物事に取り組まない生徒。
私立	自身の将来設計があいまいな生徒。自己PRが苦手な生徒。
私立	自分の意見を持っていない生徒、学ぶ意欲のない生徒。
私立	自分の学び、将来的に希望が明確でない生徒。
私立	志望が不明確。ただ大学生になりたいだけの生徒。
私立	志望動機があいまいな生徒。
私立	志望動機が定まっていない、もしくはそれらを面接官にうまく伝えきれていない。
私立	志望動機が明確でない。面接の対応ができない。
私立	志望理由がまとまっていない生徒
私立	志望理由が明確でない。
私立	志望理由を伝えられない。
国公立	周囲との比較で自身の強みが見いだせない生徒は厳しい。
国公立	消極的、受け身の性格の人。
私立	消極的な人。
私立	将来の職業の理解力が低い生徒。特にAO入試では入学後の学習意欲を面接で見えるが、理解していないと入学後、何をどのように努力したいかが言葉にできないようだ。
私立	将来の進路について目的意識が薄い生徒。
私立	将来のビジョンが明確でなく、本学・学部のアドミッションポリシーへの理解が乏しく、学部での学びを重要視できていない学生は向かない。

設立	AO入試や公募制推薦入試に向かない生徒の傾向とは？
国公立	進路(看護)に対する意識が希薄な生徒。
私立	進路選択等を含めて、すべてにおいて主体性が見られない。
私立	大学で学ぶ目的が明確でない生徒。
国公立	大学に入学後は自立的に学ぶための、学習意欲、知的好奇心、学習計画力、学習方法、集中力、持続力、及び互いに教えあう、学びあうためのコミュニケーション力が不足している。
国公立	大学に入学して何をしたいのかわからない生徒。また、目標を持っていない生徒。
私立	大学に入って具体的にどういったことを学んで何がしたいのか、意思がはっきりしていない学生。
私立	他者とのコミュニケーションが成り立たない生徒。
私立	他人とコミュニケーションをとるのが苦手な生徒は、AO入試に向かない。
私立	内向的な生徒。
私立	難易度の高い大学に入りたいというブランド大学志向の強い生徒。
私立	入学意欲や学習意欲を表現できない生徒。
私立	入試が早期に実施される時に、志望動機が不十分な受験生が時折散見する。
私立	入りやすい入試としてとらえていると、入学後に様々な場面で苦勞することになり得るため、入学前スクーリング等で基礎能力等を養ってほしい。
私立	話す力、聞く力、論理的に文章を書く力が欠けているもの。
私立	人前で話せない生徒、消極的な生徒。
私立	表現力の乏しい生徒。
私立	福祉の分野はコミュニケーション能力が求められるので、面接ではそこに注目している。
私立	勉強したくないからAOを選んだ学生は、入学後に苦勞している。
私立	本学で学ぶ目的意識や意欲が希薄な生徒
私立	本学についてあまり知らないが受験だけしてみるという生徒は、面接において大学での学習意欲が伝わりにくい。
私立	本学のAO入試・推薦入試ではプレゼンテーションや面接(面談)を重視して行っているため、人前で話すことが苦手な方は向かないと思われる。
私立	本人の意志でなく、親の言いなりで受験する生徒。
私立	明確な目的意識をもたないまま入試に臨む生徒。
私立	目指す資格取得への熱意が感じられない。
私立	面接があるので、コミュニケーションが苦手な生徒。
私立	面接ができない生徒(コミュニケーションが苦手)。
私立	基礎的なコミュニケーション力、自己表現力が乏しい子。
私立	面接が不得意な受験生には向いていない。
私立	面接でコミュニケーションが取れない学生。
私立	面接での受け答えができない生徒は不向き。
私立	面接でのシミュレーションが不得意。
私立	面接において自己アピールが苦手な生徒。
私立	面接において自己主張をはっきりできない生徒。
私立	面接のとき自分の考え意を明確に述べることができない。
私立	面接は訓練されているようだが、小論文を苦手としている傾向がある。文章を書く訓練をしてほしい。
私立	面接や面談が必ずあるので、自分の考えを自分の言葉できちんと語れない生徒は難しい。
私立	面接を課される試験では、志望分野に対する関心や学ぶ意欲、高校時代に経験したことなど自分の考えを言葉で伝える練習ができれば、「向かない生徒」はないと思う。
私立	面接を課す選考では、話すことが極端に苦手な生徒は向いていないと感じる。
私立	面談や面接というスタイルのため、志望理由等を明確に伝えることが苦手な人。
私立	目的意識の希薄な生徒。
私立	目的意識の希薄な人。
私立	目的意識の低い生徒。
私立	目的意識の低い人。

設立	大学から、高校の先生方にお伝え・お願いしたいことなど
私立	AO、推薦入試は、ある程度自分の方向性が定まっている生徒を求めている。また、人に関わる仕事をイメージしているため、そのあたりを重視している。
私立	AO入試では、受験生の学ぶ姿勢や意欲、将来性など、通常の入試では点数にできない受験生の魅力を多角的に評価する。多くの生徒にチャレンジしてもらえるようご指導をお願いしたい。
私立	AO入試については意欲の高い方の受験が続いているので、継続している。
私立	AO入試の実施、合格発表時期は早いですが、高校教育の支障にならないよう配慮している。
私立	AO入試は成績の低い生徒のための入試ではない。推薦できないからAO入試という考えは誤り。
私立	明るく元気な生徒がよい。
私立	アドミッションポリシーを理解し、共感してくれる生徒の推薦をお願いしたい。
私立	安易にAO、推薦に流れるのではなく、進路多様校であっても最後まで勉強してもらい入試に臨むよう指導願いたい。
私立	医療技術系を終了するためには、学力だけでなく、高い人間性が求められる。頭でっかちにならず、バランスのとれた人間力も磨くよう指導してほしい。
国公立	英語小論文の対策として、徹底した添削指導をお願いする。
国公立	英語力の優れた人向けの「英語公募制推薦入試」を実施しているので、該当する生徒には紹介していただきたい。
私立	オープンキャンパス、説明会への参加を指導してほしい。
私立	オープンキャンパスなどで来校することを勧めて欲しい。
私立	オープンキャンパスで入試対策講座を開講している。
私立	オープンキャンパスに参加してもらい、生の大学をみてほしい。
私立	書く力、話す力、聞く力の習得を望む。
私立	学力は高いはずだが伸び悩んでいる生徒や可能性を持っている生徒で、大学で学ぶ意欲のある生徒に、AO入試や推薦入試を受験させてほしい。
国公立	看護への志向性の高い生徒の推薦を希望する。
私立	基礎学力、特に英語、数学(I・IIレベル)、国語、(現代文)及び理科(基礎レベル)を確実に身に付けさせてほしい。
私立	基礎学力をつけること、大学で学ぶ意義等教えて欲しい。
私立	高校サイドでもAO入試の意義について評価してもらい、生徒に勧めて欲しい。
私立	高校での基礎を重視しているため、基礎をきちんと理解した受験生に来てほしい。
国公立	高校と大学の学びの接続を改善していくために、双方が対等かつ緊密に交流することが大切だと考えている。
国公立	高校までを充実して、勉学とともに修得している生徒、並びに自分で問題の解決に挑む生徒が大学では伸びていくと思われる。
私立	国語が得意な生徒に、ぜひ、AOを利用してほしい。
私立	試験実施後に提出された調査書の差し替えの問い合わせが多くなってきている。提出の際には気を付けていただきたい。
私立	従来通り目的、目標意識をしっかり持った生徒の推薦をお願いしたい。
国公立	受験生にとって、国立大の受験機会が最大3回まで増えることになる。
私立	新課程で学ぶ受験生向けに2015年度入試から一般入試のさらなる充実(3教科入試の復活、特別奨学生入試の導入案)を図った。同時にAO入試の受験機会の充実も行っている。
私立	心的要因等、入学後に注意が必要な事項を伝えて欲しい。本学及び学部特性へのマッチングを考えるよう指導してほしい。
私立	生徒にとって最も適した受験方法を紹介してほしい。
私立	生徒本人がなぜ「AO」「推薦」入試で受験を希望するのか、本人・保護者・先生と相互に理解納得した上で、チャレンジしてほしい。
私立	世界の多方面から集う学生が日々過ごすキャンパスには是非一度来てほしい。
私立	大学で学ぶ上で高校までの基礎学力は大切になるので、AO入試等で早く受験が終了した方も入学まで継続的な学習を行えるよう、サポートしていただきたい。
国公立	大学に入学することのみを目標とすることなく、何らかの目標を持って大学に入学する生徒を育ててほしい。
私立	大学のことをよく知ってから受験してほしい。
私立	大学や進路への自己目標・目的を定められるように指導してほしい。
私立	知名度や規模ではなく、大学の中身における評価や進路指導をよく知って欲しい。
国公立	強い意志を持っている、基礎的な学力のある方の志願をお願いする。
国公立	入試区分と入学後の成績に相関はない。
私立	入試の仕組み等、年々改良に取り組んでいる。
私立	福祉は、人相手の仕事。人のために何かをしたいという高校生の応募を待っている。
私立	偏差値や知名度にとらわれないこと、現在の消費者主義的な教育環境だからこそ、本質的な「教育」という部分を進路選択の際に重要視してほしい。
私立	本学で実施するオープンキャンパス、授業公開、進学ガイダンスなどにご参加いただき、本学のことを深く知って頂きたい。
国公立	本学で本当に勉強したいと思っている者を推薦してほしい。
私立	本学で学ぶ意欲の高い生徒たちの出願を期待している。
私立	本学のことを深く知っていただき、意欲の高い生徒にぜひ受験を勧めていただきたい。
私立	本学の学びの特徴(英語教育について)PRしてほしい。
私立	本学は受験結果を高校に伝えている。AOについてはエントリーの段階から高校にお知らせしているので、承知しておいて欲しい。
私立	まずはオープンキャンパスに限らず、大学を見学することを勧めてほしい。
私立	面接試験では、生き生きとした表現ができるコミュニケーション能力を示せることが望ましいと思う。しかし優等生的な返答は不要。
私立	面接指導の強化。

設立	大学から、高校の先生方にお伝え・お願いしたいことなど
私立	面接等の指導で型にはまった受験生が多いことを危惧している。
国公立	面接において、自分の意見を述べるだけでなく、面接者との対話ができるように指導いただきたい。